

アルプス広域コーディネータ連携事業

支援概要

地域の産業支援機関のコーディネータや担当者が一堂に会した連絡会議（アルプス広域コーディネータ連絡会議）を毎月開催して、企業状況やニーズ及び各種の支援制度情報など、活きた貴重な情報をコーディネータ間で共有し、連携を図ることで企業支援が促進されることを主目的としています。この会議は毎年秋口に開催する産学官連携交流会事業の共同企画も担っております。

支援経緯

アルプスハイランド地域センターは長野県西部地域、最北の小谷村から最南の南木曾まで県土の1/3を占めており最も広範囲なエリアを担当しています。

このような環境において、様々な支援機関が保有する情報を共有することにより、的確で効果的な支援に結び付けていくため、10年程前にアルプス広域コーディネータ連絡会議として発足し、事務局はアルプスハイランド地域センターが務めております。参加機関は、県地域振興局やテクノ財団を含む県外郭団体、市町村及び支援機関、商工会議所、更には大学、高専など学校関係者等、計23機関からなります。

活動実績・成果

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、複数のサテライト拠点（松本合同庁舎、松本ものづくり産業支援センター等）を設

けた上で、全てオンラインにて開催しました。

クラウドサーバーを活用して説明資料や会議録などの共有化を行うことでスムーズな情報共有を図ることができました。

オンライン会議のため、意見交換のやりにくさや、通信環境やマイクの不調等多少のトラブルが発生しましたが、遠隔地のメンバーが容易に参加できるという大きなメリットもありました。

2020年5月～2021年3月まで計11回開催して、景況情報や企業情報、各種支援情報、各機関の催事情報を共有した他、産学官連携交流会の企画策定を行いました。

延べ出席者は236名



松本合同庁舎会場



松本ものづくり産業支援センター会場

大学・高専・企業との産学官連携交流事業

支援概要

地域企業と県内大学・高専等との産学連携を促進するため、学から活用可能なシーズを提供することにより自社のものづくり技術の高度化、発展の足掛かりとなる機会を提供しています。

令和2年度は、中部イノベネットを共催に加え「産学官連携交流会 in 松本 2020&産業技術の芽シーズ発表会」と題して、まつもと芸術館を主会場に名古屋、東京を交えたオンライン配信にて開催いたしました。

支援経緯

令和2年度で17年目を迎え、アルプスハイランド地域センターでは長い歴史を持つ看板事業となります。

松本地域産学官連絡会、信州大学学術研究・産学官連携推進機構、国立長野高専地域共同センター、公立諏訪東京理科大学、長野県松本地域振興局、松本市、塩尻市、安曇野市、松本商工会議所等から共催または後援を頂いています。

活動実績・成果

《基調講演》

「自動運転用の最新車載及び開発プラットフォーム技術」

講師 元 NVIDIA 技術顧問 馬路 徹 氏

《研究発表》

1. 「ソノケミカルコーティング」

講師 信州大学工学部 物質化学科 教授 酒井 俊郎 氏

2. 「マイクロ・ナノテクノロジーの医工学や環境問題への応用」

講師 信州大学繊維学部 機械ロボット学科准教授 秋山 佳丈 氏

3. 「準天頂衛星システム「みちびき」用平面アンテナの開発」

講師 長野工業高等専門学校 電気電子工学科教授 柄澤 孝一 氏

4. 「無線操縦式畦畔除草機の操縦支援システムについて」

講師 長野県工業技術総合センター 環境・情報技術部門 情報システム部 研究員 油科 賢 氏

5. 「農作物栽培に必要な光を通す有機太陽電池」

講師 公立諏訪東京理科大学工学部 機械電気工学科教授 渡邊 康之 氏

6. 「材料設計計算工学の未来はここに!!! フェーズフィールド法・特性計算・インフィマティクスによる次世代材料開発」

講師 名古屋大学工学研究科 材料デザイン工学専攻教授 小山 敏幸 氏

7. 「CFRTP 曲げ加工装置および CFRTP3D 曲げパイプ」

講師 あいち産業科学技術総合センター 三河繊維技術センター主任 研究員 原田 真 氏

8. 「光で危険ゾーンを可視化して注意を促し労働災害を低減」

講師 光産業創成大学院大学発ベンチャー企業パイフォニクス株式会社代表取締役 池田 貴裕 氏

9. 「レーザーによる金属表面処理技術（平滑化・摩擦低減・応力付与）」

講師 光産業創成大学院大学 光産業創成研究科准教授 沖原 伸一郎 氏

参加者 185名



松本会場

価値づくりカパワーアップ講座

支援概要

本講座は、付加価値の高いものづくり・コトづくりに取り組む中小製造業・サービス業の経営者や企画・開発者の価値づくり力を高めることを目的に、「デザイン思考」の基礎を学ぶセッションとチームでの体験学習により学ぶセッションが組み込まれており、実業務への応用・実践力アップを支援するための研修事業です。

支援経緯

2018年「中小企業の特特定ものづくり基盤技術の高度化に関する指針」の改正がなされ、ユーザーの潜在的な課題や期待に対して、自らの保有技術とビジネス価値を同期させるプロセスを導入し、ユーザーや市場ニーズを満足させる付加価値の高いサービス・機能・ソリューションの開発・提供を進めていくことが、中小企業経営にとっても重要であることが明記されました。

同年経済産業省と特許庁が、『デザイン経営』宣言」と題する報告書を発表しました。この背景にある考え方・方法論が「デザイン思考」です。実践する企業とそうでない企業では、4倍もの利益差があるとのデータも紹介されました。

この動きを踏まえ、2019年度 地域の中小製造業向けに「デザイン思考体験基礎講座」をスタートし、参加者からは好評をいただきました。2020年度は2年目となりますが、アンケート等の声も踏まえ実業務に応用・実践いただけるよう、課題改善や内容のアップグレードを図り実施しました。

活動実績・成果

方法 4回のシリーズ開催
各回13:30~16:30実施
オンライン開催（Zoom利用）

講師 株式会社U-NEXUS
代表取締役 上野 敏良 氏
企業変革・価値創造コンサルタント
アイリーニ・マネジメントスクール
デザイン思考研究所アドバイザー
兼上級ファシリテーター

参加者 11社12名

◆第1回 7月21日（火）

1. デザイン思考の5ステップをクイック体験
2. テーマ設定、インタビュー項目の設計
3. 振り返り・質疑応答

◆第2回 7月28日（火）

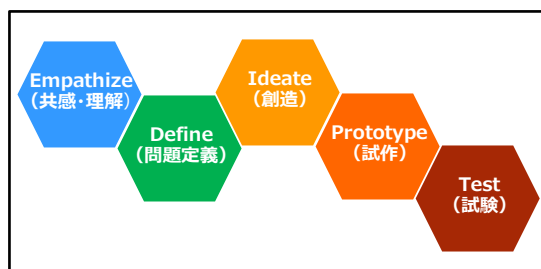
1. 情報の収集と整理、ユーザーへの「共感」
2. ニーズ及びバインサイトの発見、「問題定義」
3. 振り返り・質疑応答

◆第3回 8月 4日（火）

1. アイデア創造プロセスの実践
2. アイデアの試作「プロトタイプング」
～「ユーザーテスト」
3. 振り返り・質疑応答

◆第4回 8月11日（火）

1. ユーザーテスト結果反映「プロトタイプ改善」
2. 「ストーリーテリング」、全体発表
3. 振り返り・質疑応答



デザイン思考5つのステップ

スタンフォード大学
ハッソ・プラットナー・デザイン研究所